

幸地 酉年十五夜あしび

幸地では、旧暦七月と八月の三日間に村遊びを行う、まさにあしびぐに(遊び国)であったと伝え聞きます。特に子年と酉年には場所を変え、三か所に舞台を設置していたそうです。幸地の村遊びは、獅子舞を迎えもてなすために行われるともいわれています。



小波津 七年まーる村遊び

旧暦八月十五夜に、豊作祝いとして行われてきた小波津の村遊びは、明治末には七年ごとの開催となり、昭和五十年を最後に途絶えていました。平成十七年に三十年ぶりに開催されて以来、伝統芸能保存会によって継承されています。神獅子として崇められている獅子舞や棒術は、小波津独特の演目となっています。



棚原 酉年十二年まーるあしび

棚原では、古くより八月十五夜にあしびが行われてきましたが、戦後は十二年に一度、酉年での開催となりました。なぜ酉年かという、棚原の守り神・みるく加那志が酉年生まれだからといわれています。

棚原のあしびの特徴ともいえるみるく神は、西原でもここ棚原だけに祀られており、みるく登場に演奏される楽器・ガクも独特な雰囲気を出していました。

